

4 アンケート調査結果の分析 — 女性獣医師をめぐる現状と課題 —

(1) 仕事上の不安や負担

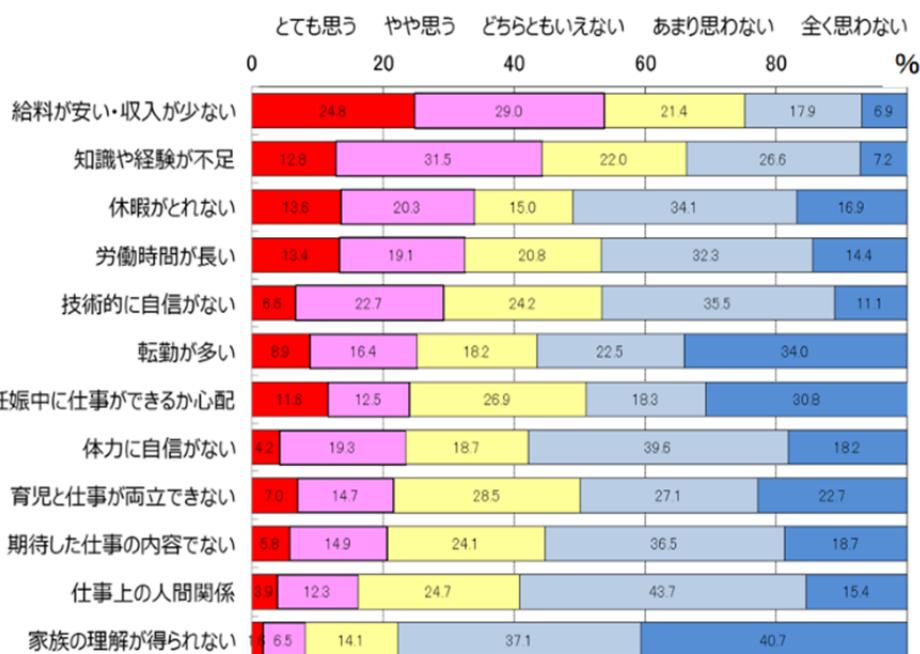
図3－1に、仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うかどうかを項目ごとに質問した回答結果を示した。「とても思う」、「やや思う」と回答し、不安や負担感を感じている割合が高かった項目は、「給料が安い、収入が少ない」で、回答の半数以上であった。特に、40代以下の男性や公務員でその割合は高かった。

次いで高かった項目は、「知識や経験が不足」で、全体では44%だが、20代では男女とも77%、30代では男性で53%、女性で60%を占め、若い世代ほど高く、免許を取得しただけでは、知識や経験が不足と感じていることがわかった。

その次が、「休暇がとれない」「労働時間が長い」で、全体では約3割だったが、小動物診療、また、個人診療施設では約7割を占め、個人の動物病院の獣医師は、特に、厳しい就業環境にあることがわかった。

一方、仕事上の人間関係や家族の理解については、6割以上の人人が問題と感じておらず、周囲の理解のもと、獣医師としてプライドをもって仕事をしている様子が伺われた。

図3－1 仕事上の不安や負担（全体）



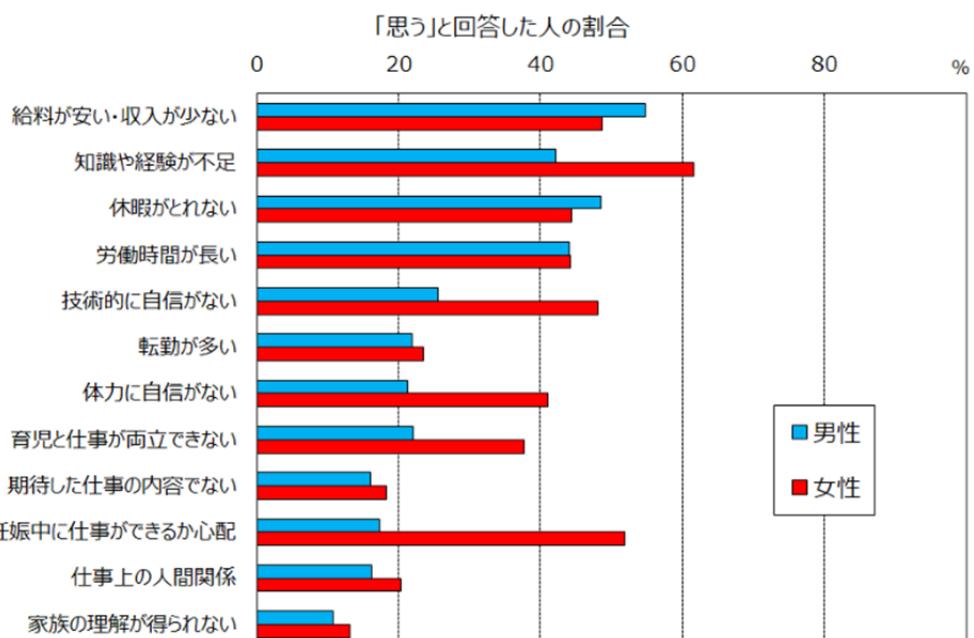
次に、図3－2に、仕事上の不安や負担感について、男女を比較した結果を示した。

「とても思う」、「やや思う」と回答した人の割合は、男性では「給料が安い」とした回答がトップで、次いで、「休暇がとれない」、「労働時間が長い」、「知識や経験が不足」となっていた。

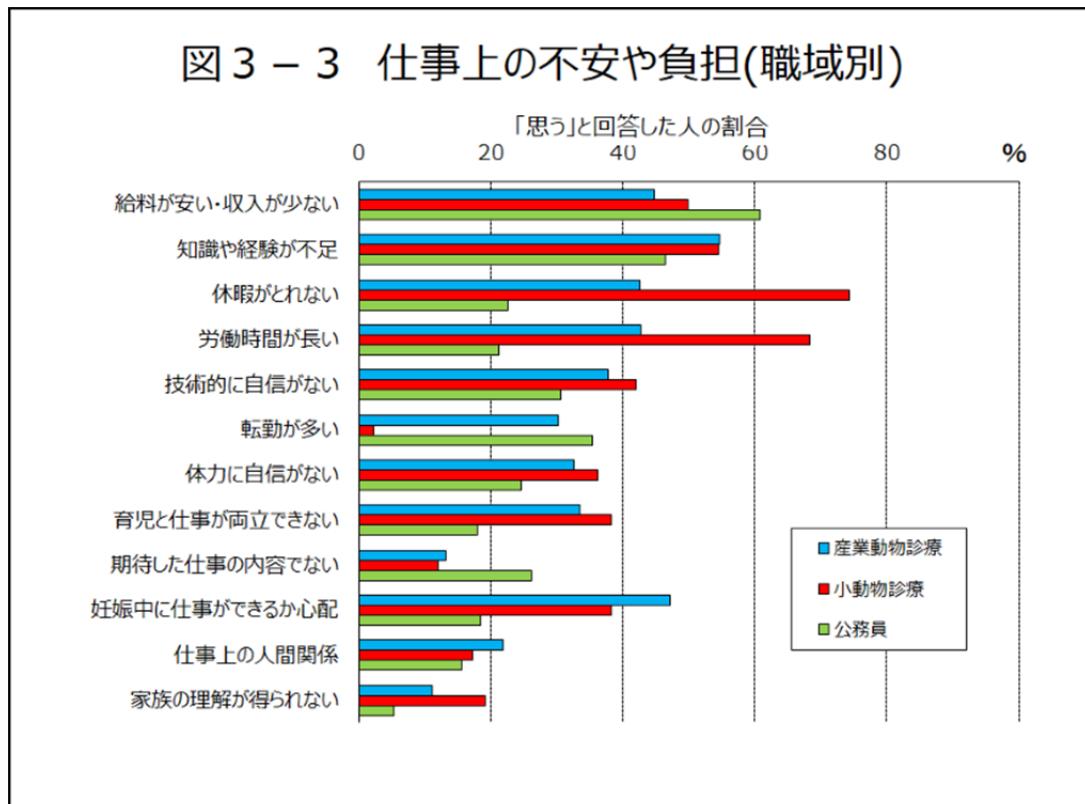
一方、女性では、給料や、休暇、労働時間という男女共通の課題に加え、「妊娠や育児と仕事との両立が難しい」、「体力的に自信がない」との回答も多く、女性獣医師は、男性獣医師より、数多くの負担や不安を抱えている実態が伺われた。

なお、「知識や経験が不足」、「技術に自信がない」とする回答も多かったが、これは、まだ40代以上の女性獣医師は少なく、回答者が若い年代に偏っているためと考えられた。

図3－2 仕事上の不安や負担(男性・女性)



次に、図3-3で仕事上の不安や負担感を職域別に比較した。
特に際立っていたのは、「休暇がとれない」、「労働時間が長い」の項目における小動物診療分野の回答結果であり、約7割と突出していた。
また、産業動物診療分野では、「妊娠中に仕事ができるか心配」とする回答が他の職域より多かった。
一方、公務員は、休暇や労働時間、仕事との両立については比較的恵まれているものの、「給料が安い」、「転勤が多い」、「期待した仕事の内容でない」とする回答が他の職域より多かった。



(2) 女性の就業支援の整備状況

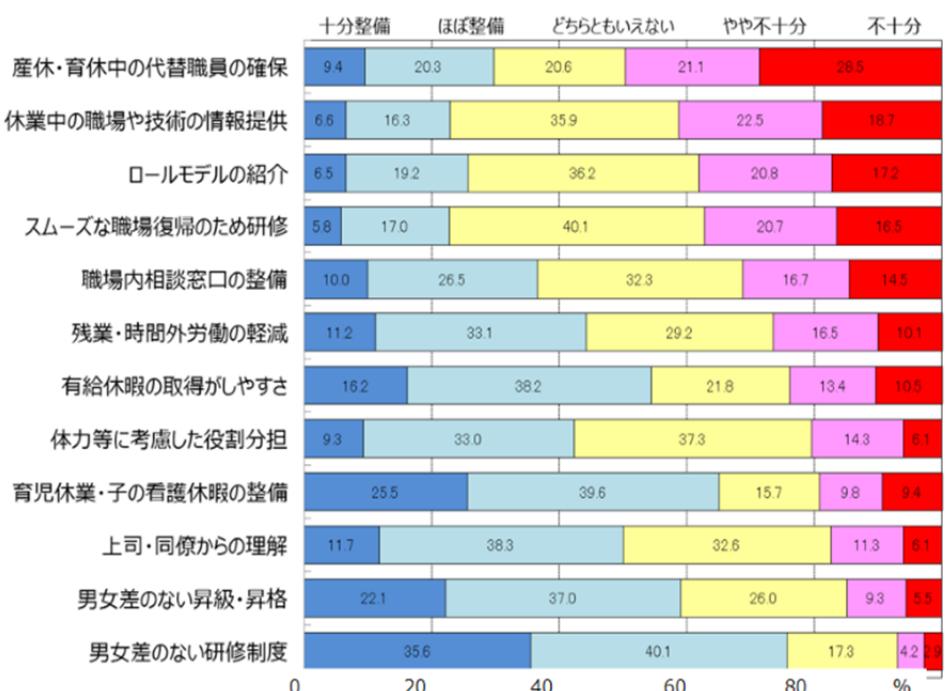
図4－1に、職場における女性の就業支援がどの程度整備されていると感じているかを項目ごとに質問した回答結果を、「不十分」、または「やや不十分」と回答した割合の高い順に示した。

トップは、「産休・育休中の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備」で、約半数が不十分と答えた。

次いで「休業中の職場や技術情報の提供」、「子育てと仕事を両立しているモデルケース、いわゆるロールモデルの紹介」、「休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実」が約4割であった。

一方、「男女差のない研修制度」、「育児休業・子の看護休暇の整備」については、「整備されている」という回答が6割以上であった。

図4－1 女性の就業支援の整備状況（全体）



男性、女性で比較すると、図4-2のように、いずれの項目も女性の方が不十分とする回答が多かった。

項目別では、男女とも「代替職員の確保」が最も不十分としており、「職場内相談窓口の整備」や「育児休業制度等の整備」等、職場内の問題については比較的両者の認識は一致していた。

一方、「休業中の情報提供」、「ロールモデルの紹介」、スムーズな「職場復帰のための研修」等については認識に差があり、男性が考えている以上に、女性獣医師が、妊娠、出産で仕事を離れてもスムーズな復職を望んでいること、育児中も仕事を続けたいと高い就業意欲を持っている一方でそのための体制の整備がまだ不十分と感じていることが伺われた。

図4-2 女性の就業支援の整備状況（男性・女性）

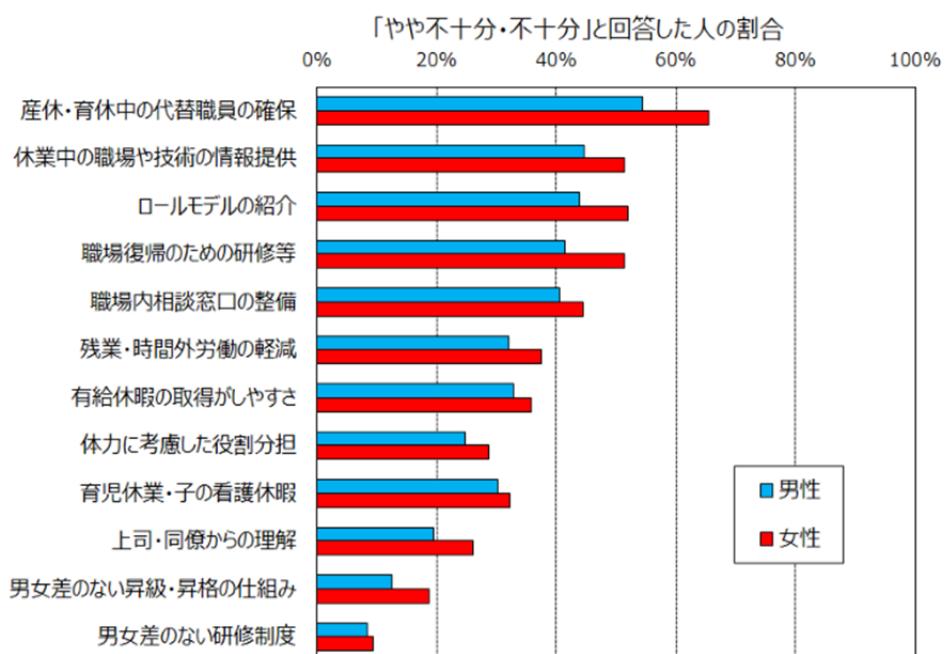


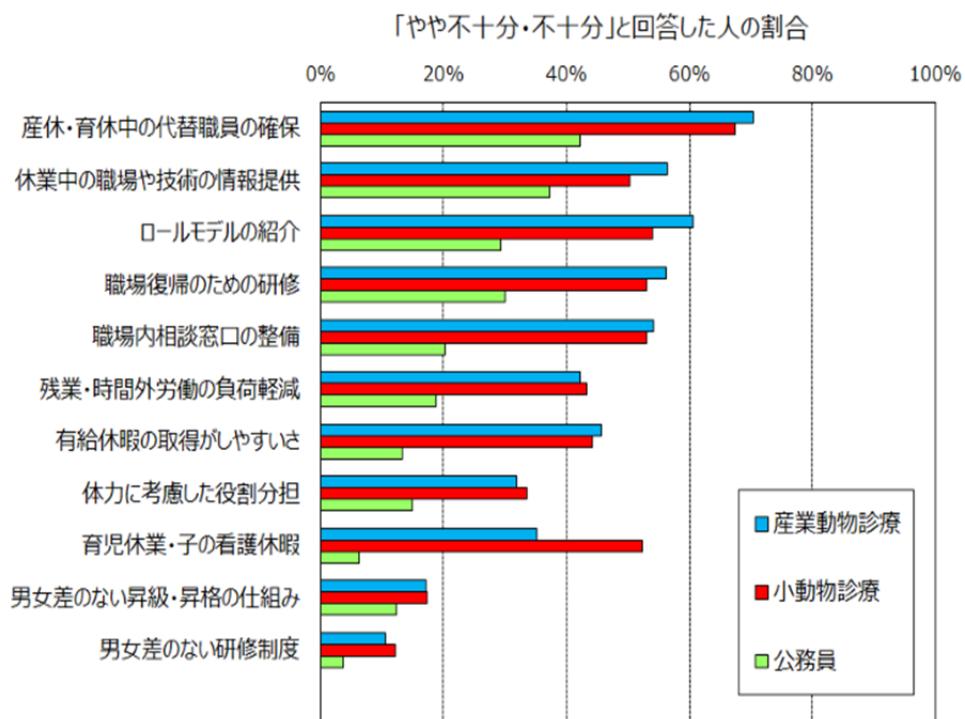
図4－3に、女性の就業支援の整備状況を職域別に比較した結果を示した。

産業動物診療では、全体として、他の職域と比較し、不十分とした回答が多く、「代替職員の確保」、「ロールモデルの紹介」、「職場内相談窓口の整備」、「休業中の情報提供」、「職場復帰のための研修」等が、不十分であるとした人が過半数を超えた。これまで産業動物分野の女性獣医師が少なかったことから、体制の整備が遅れている実態が反映されたものと考えられた。

また、小動物診療でも不十分とする回答が多く、特に、「育児休業、子の看護休暇等の整備」、「残業・時間外労働の軽減」、「有給休暇の取得」等、長時間労働、休暇制度の充実が切実な課題となっている実態が伺われた。

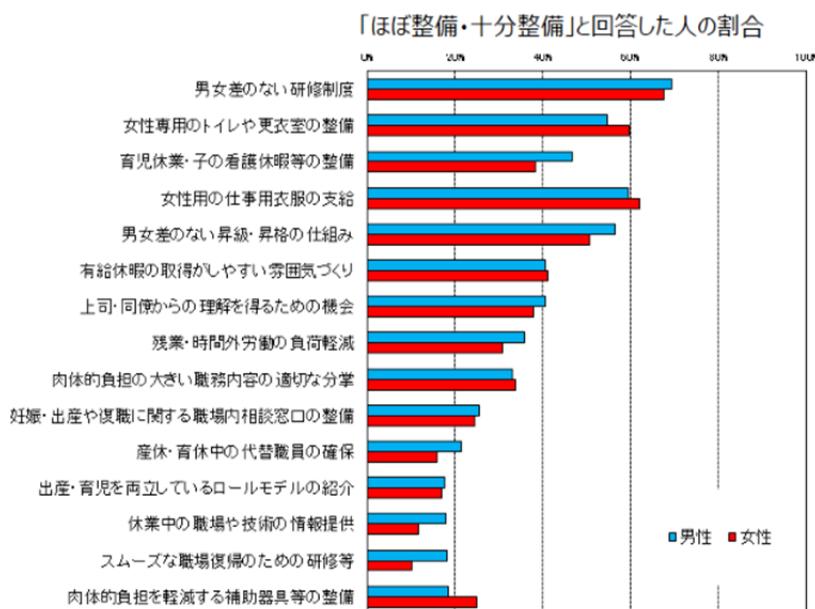
一方、公務員については、全体に不十分とする回答は少なかったが、「代替職員の確保」、「休業中の情報提供」については約4割の人が不十分と回答していた。

図4-3 女性の就業支援の整備状況（職域別）



一方、女性の就業支援の整備状況について、「十分整備されている」、「ほぼ整備されている」と感じている割合を、男性、女性で比較すると、図4-4のように、全体に男性の方が、「整備されている」との回答が多かった。

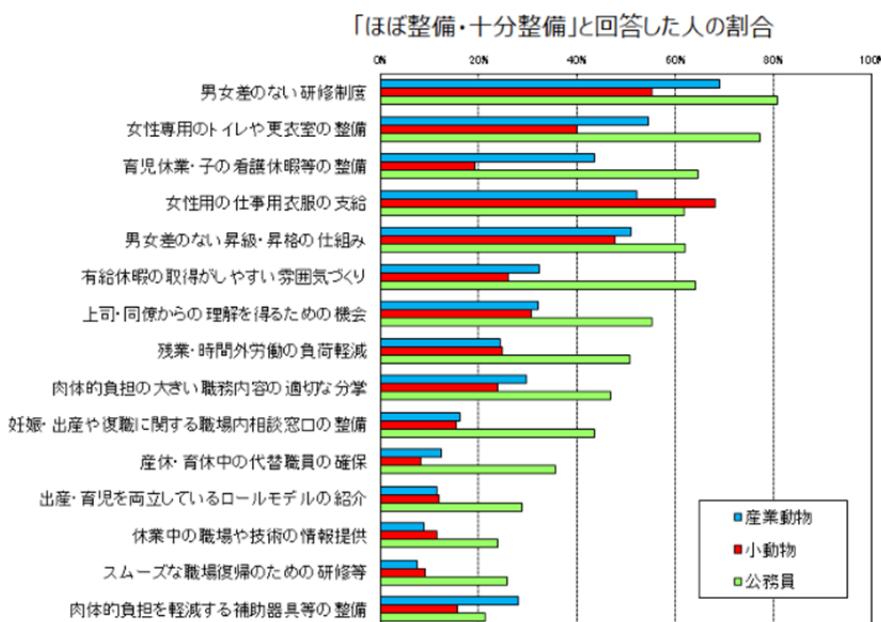
図4-4 女性の就業支援の整備状況（男性・女性）



また、職域別では、図4-5のように、公務員では、「整備されている」との回答が多くの項目で過半数を超えていた。

特に、男女差のない研修や昇給、育児休業や子の看護休暇など、制度的なものについては、「整備されている」との回答が多かった。

図4-5 女性の就業支援の整備状況（職域別）

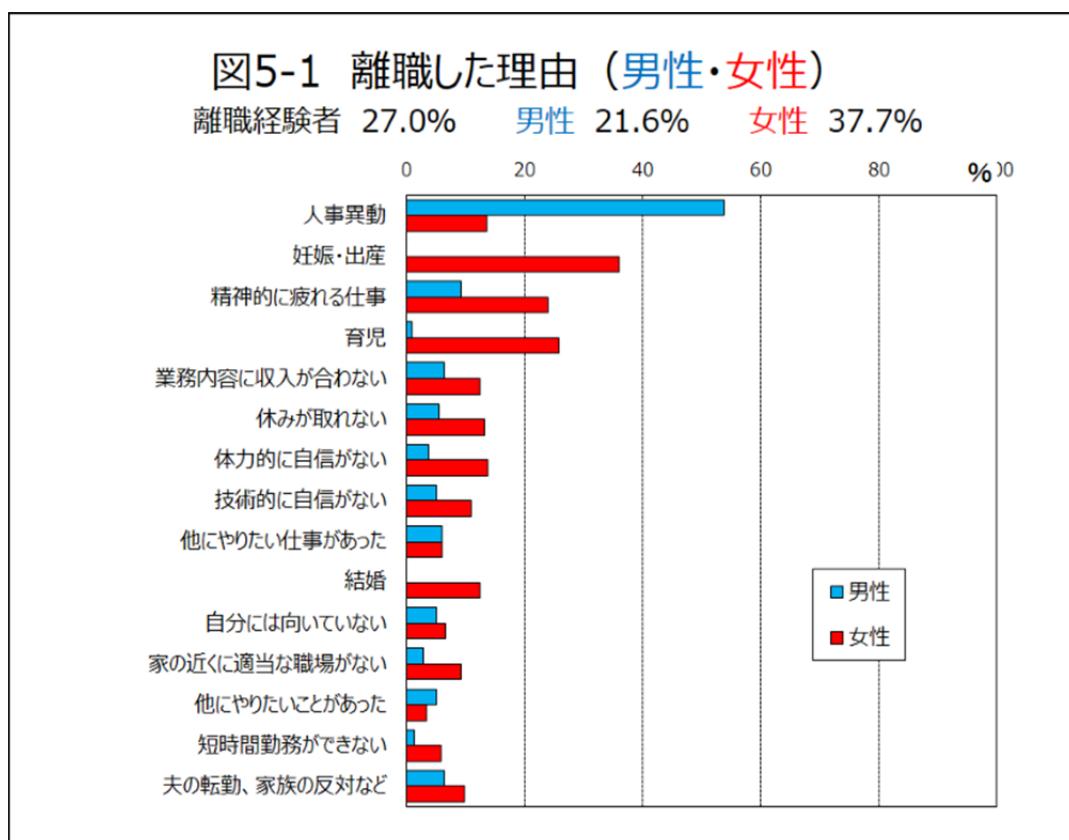


また、自由回答意見でも、「出産、子育て中の女性職員への優遇措置が、他の職員への負担になっている」という意見が多く寄せられていた。

今後、女性獣医師の割合の増加に伴い、体制整備等のハード面だけではなく、代替職員の確保や、雇用保険の利用等をそれぞれの職場で推進するといった運用面での充実とともに、職場の人間関係を円滑にすすめるための利用する側の自覚と配慮等、ソフト面での充実とそのための支援が必要であると思われた。

(3) 離職した理由

「これまで、獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことがありますか」という設問については、図5-1のとおり、全体の27%で離職経験があり、男性21.6%に対し女性は37.7%と離職経験者が多かった。離職の理由は「人事異動」がトップで、男性では54%を占めた。女性では、「妊娠・出産」が36%、次いで、「育児」の26%、「精神的に疲れる仕事」の24%であった。

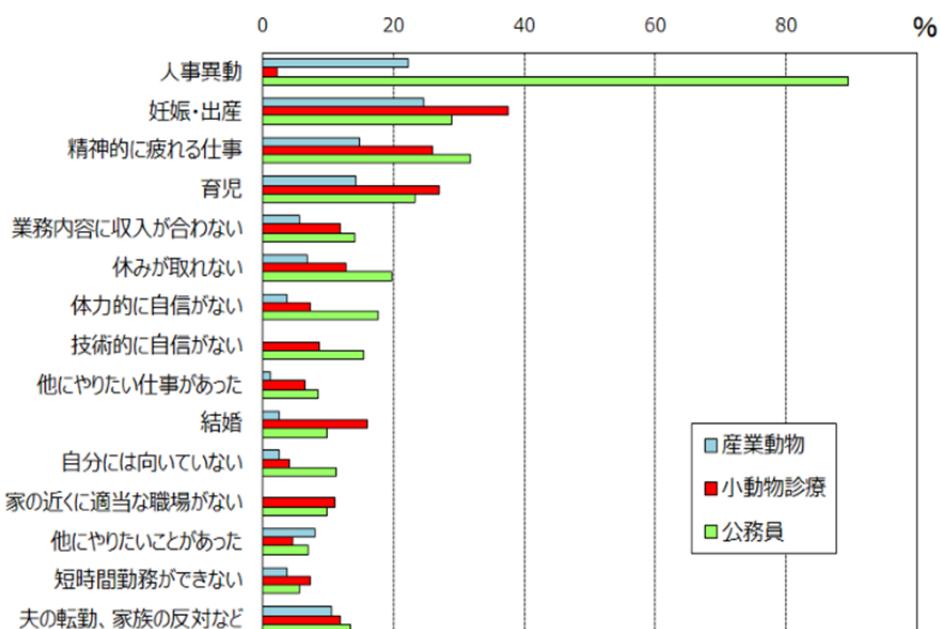


離職理由を職域別に比較すると、図5－2のとおり、公務員では「人事異動」が約9割と突出していた。なお、「獣医学上の知識を必要としない業務についている人」の離職理由のトップは「人事異動」で54%、また、現在、無職の人の離職理由も「人事異動」が27%でトップ、「妊娠・出産」と「育児」がそれぞれ23%であった。

昨今、女性の社会進出に伴い、職員の勤務地や仕事内容について、介護や育児等に配慮する企業が増えている。公務員獣医師の不足・偏在が深刻な課題とされるなか、給料、休暇等の待遇改善とともに、人事異動が離職につながらないよう、さらなる配慮やより柔軟な対応が求められていると考えられた。

図5-2 離職した理由(職域別比較)

離職経験者 産業動物診療16.2% 小動物診療21.9% 公務員14.2%



(4) 自由回答について

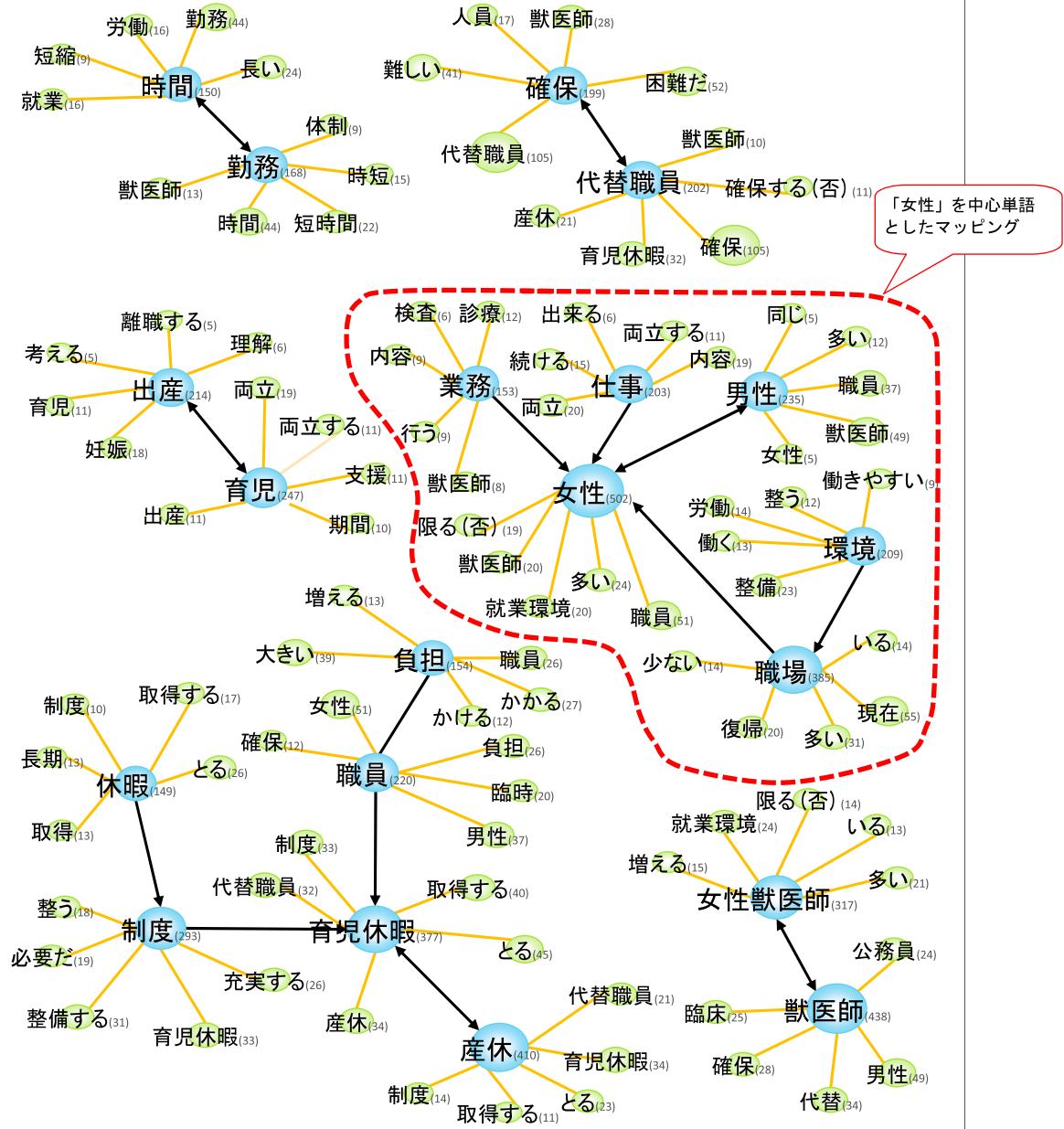
今回のアンケート調査では、1,960名という非常に多数の方から自由回答が寄せられた。

図6-1は、コンピュータ処理によって、全自由回答から、よく使用されている単語を中心単語として抽出し、それにつながる単語を専用ソフト(Quick-MINING ASP, (株)マクロミル提供)で集計し、マッピングしたものである。

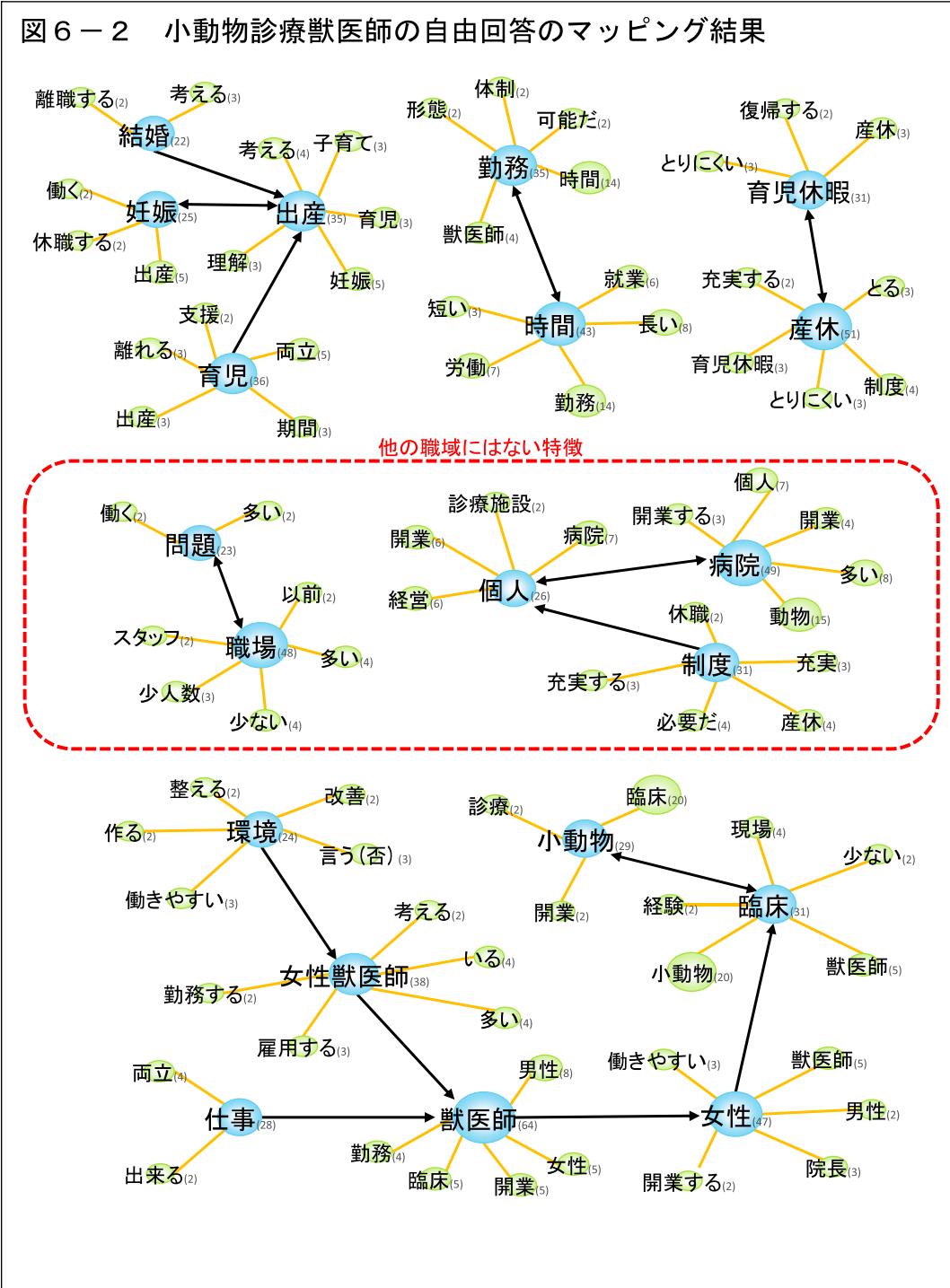
1,960の回答のうち、502の回答に「女性」という単語が使われており、ブルーで示した女性という中心単語から、職場・男性・仕事等の単語がつながっていることを黒の矢印で示しており、カッコ内の数字が出現数、「限る(否)」は、限らない、限るべきではないと否定的な表現であったことを示している。

この結果、女性獣医師のライフステージの中では、出産と育児が大きなトピックであること、仕事との両立には、男性も含めた職場環境の整備が必要であること、その具体策として、産休・育休を取得しやすい仕組みづくり、特に代替者確保策が必要であること、短時間勤務の仕組みが必要とされていること等のコメントが多かったことが読み取れた。

図 6－1 全自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果



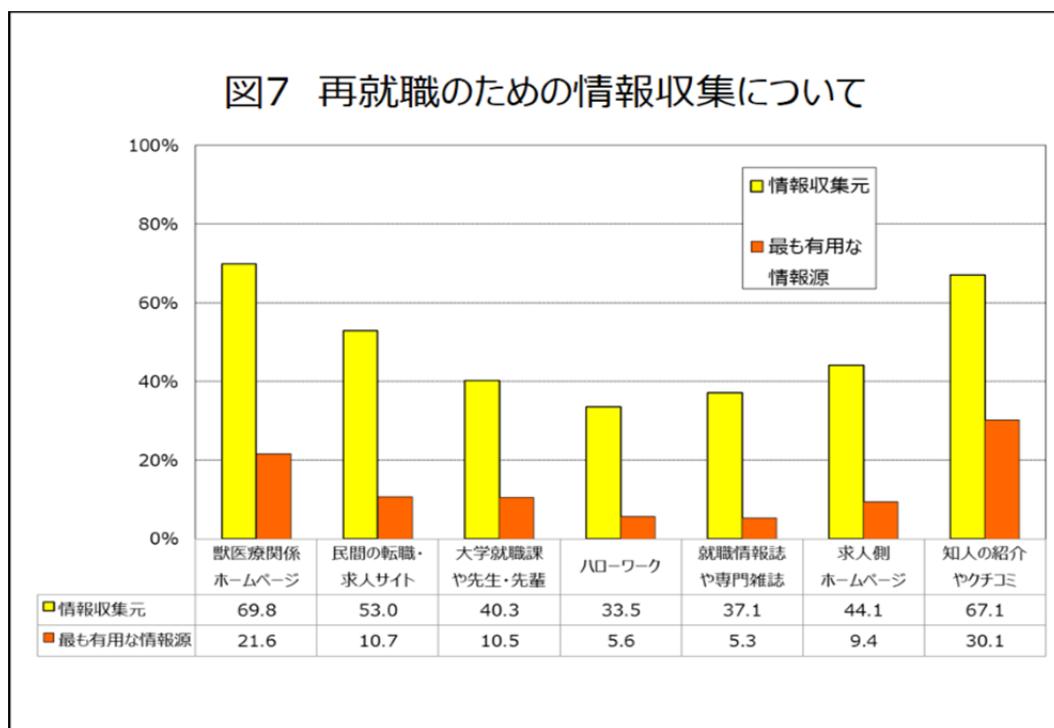
同じように、図6-2に小動物診療獣医師からの292の回答をマッピングしたところ、他の職域とは異なる特徴が認められた。図で、赤の点線が囲ったように、小動物診療分野では、個人経営の小規模な動物病院が多いため、スタッフも少なく、産休や育休等の制度も充実しておらず、女性獣医師には厳しい職場環境であると感じていることが伺われた。



(5) 再就職のための情報収集について

図7に示したように、再就職のための情報収集先としては、獣医療関係のホームページや、知人や友人の紹介やクチコミとする回答が多く、一般的なハローワークや就職専門誌は少なかった。

特に、20代、30代については、獣医療関係のホームページからが約8割、求人サイトが7割とインターネットを利用して情報収集していることがわかった。



以上、アンケート調査の結果、女性獣医師の就業環境は厳しく、特に、産業動物診療や小動物診療において、「育児や仕事との両立」、「妊娠中の仕事」等に不安を抱えていることが明らかになった。

さらに、今回男性獣医師からも回答を得たことで、男女共通の課題も多いことが浮かびあがった。「公務員の給料が安い」、「若手獣医師の知識や経験の不足」、「小動物診療の休暇がとれない」、「労働時間が長い」等でこれらを改善し、女性獣医師が働きやすい環境を整備することは、すべての獣医師が働きやすい環境づくりにつながることが示唆された。

また、女性の就業支援の実態として、公務員は比較的整備されているが、診療分野ではまだ不十分との回答が多く、特に、小動物診療では、「有給休暇の取得」や、「育児休業」等、「子育て支援のための休暇制度の充実」を望む声が多かった。

一方、離職については、回答者の1/4が離職経験者で、離職理由のトップは「人事異動」で、特に公務員の男性では突出していた。また、女性の離職理由は「妊娠や育児」も多かった。

アンケート調査のまとめ

○獣医師が抱えている不安

・女性獣医師の課題

育児と仕事が両立できない・妊娠中の仕事

・男女共通の課題

給料が安い・収入が安い（公務員・20～30代）

休暇がとれない・長時間労働（小動物診療）

知識、経験の不足、技術的に自信がない（20～30代）

○女性の就業支援の実態（不十分との回答が多かったもの）

産休中や代替職員の確保 休業中の情報提供

ロールモデルの紹介、スムーズな復帰のための研修

子育て支援のための休暇制度（小動物診療）

○離職について 離職経験者は27%

離職理由のトップは人事異動 女性：妊娠や育児